

令和5年度 学校経営計画

学校教育目標

しなやかな子ども（知）

- （自らが学びに向かい、知識を知恵にかえ、行動できる子ども）
- ・興味、関心、意欲をもって、自ら課題解決に取り組む。
 - ・自分の考えをもち、すすんで表現する。
 - ・自分と違う立場や見方、考え方を受け入れて、よりよく考えようとする。

おだやかな子ども（徳）

- （相手の気持ちを大切に、あたたかでぬくもりのある人づくり、学校づくりの担い手となる子ども）
- ・相手の立場にたって考えたり行動したりする。
 - ・誰とでもすすんで関わり、力を合わせて一緒に学習や仕事をする。
 - ・自分の役割がわかり、最後までしっかりとやりとげようとする。

すこやかな子ども（体）

- （心身ともに健康な生活を送ることを意識して行動できる子ども）
- ・あいさつや返事をしっかりする。 ・元気に遊び、すすんで体を鍛える。
 - ・相手や場面に応じた言葉遣いや態度を考えて行動しようとする。
 - ・基本的な習慣を身に付け、安全で健康に生活する。
 - ・困難なことがあっても、あきらめないでやり通そうとする。

目指す学校の姿

～子どもも大人も、笑顔と思いやりであふれる学校に～

○子どもが「明日も学校へ行きたいな」と思える学校づくり
子ども一人一人が「分かった・できた」という喜びを味わいながら、自己肯定感を高めていける学校づくり

○教職員が子どもの成長や、やりがいを感じる学校づくり
教職員同士が切磋琢磨して教育実践に取り組めるような組織づくり

○地域に根ざした教育を実践する学校づくり
学校・保護者・地域が互いの立場を理解し合い、それぞれの役割を担って協力・連携ができる学校づくり

確かな学力の定着・向上

失敗や間違いを恐れず次への糧とすることや、何事にも前向きに取り組むことに価値を置き、体験的な活動、関係諸機関との連携、ICTの活用等、効果的な指導の工夫を行う

- ・学習指導要領の改訂趣旨を踏まえた授業改善を図る。
- ・「学習の約束」を徹底し、「各学年で身に付けたい力」が定着するよう、授業のねらいを明確にした分かりやすい授業を行う。
- ・学習内容に応じて、体験的な活動やICTなどを効果的に活用する。
- ・一人一人の学習状況を把握して教材研究をするとともに、個に応じた指導の充実を図る。
- ・校内OJTを活性化させ、授業を互いに見合い、意見が言い合える環境づくりをする。また、学力向上委員会を中心としたミニ研修を行う。

学ぶ喜びを味わう

「知識を知恵に変え行動できる児童」「多様な人々と共育・協働しながら自分の身の回りにある課題に主体的にかかわる児童」の育成を図る

- ・一人一人の豊かな「育ち」と確かな「学び」を目指すための工夫を行う。
- ・低学年は「じっくり・ゆったり」と遊びや体験をとおして「なぜ?」「どうして?」を大切にした教育活動を実践し、探究学習の素地を養う。
- ・中～高学年は「～してみたい」という知的好奇心や「自分なら～する」という主体的な学びを大切にした教育活動を進め、探究する楽しさを味わわせる。
- ・協働的な学びをとおして「持続可能な社会（SDGs）＝共生社会」の担い手を育成する。

健全な心身を育む

誰とでもすすんで関わり、困難なことがあっても最後まで諦めず取り組むことができる児童の育成を図る

- ・言語環境を整え、正しい言葉遣いや礼儀、学校内外での気持ち良い挨拶の指導を行う。
- ・いじめや仲間外れのない所属意識がもてる学校学年学級づくりをする。
- ・学習規律を大切にするとともに、きまりやルールを守る指導を徹底し、基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・体力づくり、健康づくり、食育を推進する。
- ・奉仕の心を大切に、校内外の環境整備に努める。
- ・PTAの「歩き隊活動」「見守り活動」の活性化を図る。

互いのよさを探し認め合う

あらゆる偏見や差別をなくすとともに、児童間の相互理解を深め、心の教育や連帯感を高める教育を推進し、思いやりのある児童の育成を図る

- ・教師自らが、子どものよさや頑張りを感じ、伝えていく。
- ・思いやりのある温かい人間関係を築く。
- ・なかよし班や異学年での交流活動を充実させる。
- ・子どもの個性や特性、場合によっては家庭環境に応じた指導、支援の充実を図る。
- ・「個別指導計画・支援計画」に基づいたケース会議や校内委員会を開き、特性等の共通理解を図るとともに、特別支援教室の有効活用・連携した指導を行う。
- ・特別支援の巡回指導や巡回相談の体制整備と校内連携の強化を行う。

家庭や地域との連携・協力

新型コロナウイルス感染症対策を行うつつ、地域・家庭とともに歩み育てる学校をつくる

- ・「学校応援団」「すくすくスクール」との連携を密にする。
- ・「こびとの本屋さん」「おはなしクローバー」などの読書に関わる活動については、元の形に戻す工夫をする。
- ・外国にルーツをもつ家庭に対して日本語のサポートができるように、「TOMODACHI PROJECT」を活性化させる。
- ・地域人材や地域素材を生かした体験的な学習を行う。
- ・授業参観や行事など、教育活動の積極的な公開を行う。
- ・「ほめほめカード」「ふたばっこカード」の実施・活用する。
- ・中学や保育園との交流を段階的にすすめていく。